

埼玉西部消防組合 様

すべての消防関係者へメールを一斉配信し、市民の安全安心に

1. 利用方法の詳細

- (1) 職員の非常招集及び安否確認
 - ・管内震度5弱以上で全職員へ非常招集及び安否確認メールを自動で配信する。
 - ・参集が完了した職員が、携帯電話から完了報告を行う。
 - ・消防局内の管理画面および消防局幹部の携帯電話で、回答の集計結果を閲覧し、状況把握や初動体制の確立に役立てる。
- (2) 消防団員の非常招集及び安否確認
 - ・組合構成市の参集基準震度に応じた消防団員へ非常招集および安否確認のメールを自動で配信する。
 - ・参集が完了した消防団員が、携帯電話から完了報告を行う。
 - ・各構成市防災部局の管理画面、構成市消防団幹部及び構成市防災部局幹部の携帯電話で、回答の集計結果を閲覧し、状況把握や初動体制の確立に役立てる。
- (3) 災害情報収集
 - ・消防職員及び消防団員の所有する携帯電話を活用し、災害現場の画像や状況を指定アドレスに送信させ、管内の被災状況を収集し、災害の状況把握に活用する。
- (4) 通常事務連絡
 - ・消防局から職員、また、構成5市防災部局から消防団員への事務連絡に活用している。
- (5) 情報配信
 - ・消防職員及び消防団員への火災を含めた災害発生情報及び気象、地震、河川、土砂災害の情報をメールで配信している。
- (6) 市民向け情報配信
 - ・登録した市民へ火災等の消防出場情報及び気象警報等の発表解除情報の配信サービスを行っている。

※火災情報は指令台システムと連携し、気象情報は、気象庁等の発表内容を配信している。

2. 導入の経緯

構成消防本部である旧狭山市消防本部では、緊急参集システムが大規模災害発生時における職員の非常招集や安否確認手段として、LISAPLUSK2※1が市民向けに火災発生等の災害情報の配信手段として、採用していた。具体的には、平成19年から6年間の運用実績があり、東日本大震災が発生した際にも参集メールが職員へ自動配信され、迅速な職員の非常招集が図れた。

このように安定した稼働実績、また、指令台と連携した市民への災害情報の提供、気象庁の発表した気象警報等の情報配信などの市民サービスの向上、更には、職員の安否確認、参集状況、管内の災害発生状況を収集できる機能などが備わり、とても充実したシステムであるとともにコスト的にも安価であることから導入の決め手となった。

※1. LISAPLUSK2は弊社製CMS(Content Management System)です。

3. システムを導入した効果

まず、平時および災害時に職員全員への迅速な連絡が可能であること。さらには勤務体系や資格ごとなど、分類に応じたメール配信が容易にできる為、飛躍的に業務効率が向上した。特に、震災が発生した際には自動配信で招集メールが配信されるとともに、同時に安否確認もできることから、人的な労力を必要とせずに必要な情報収集ができることを実感した。

また、構成市の消防団とのシステム連携により、広域消防と防災部局が情報を共有できたことは、実際に震災等の広域災害が発生した場合に迅速な対応が図れる。

4. 利用者数

消防職員	871名
消防団員	1246名
関係団体	271名

埼玉西部消防組合について

埼玉西部消防組合は、本部名を「埼玉西部消防局」としています。埼玉西部消防組合は、埼玉県の南西部に位置し、首都圏から30キロから50キロほどと利便性に優れ、首都圏近郊の住宅街となっています。交通網もJR東日本線と西武鉄道が区域内をめぐり都心部と結ばれています。高速道路も関越自動車道と首都圏中央連絡道が整備されており、交通網も発達しています。また、西部地域に広がる山間地から東端の武蔵野台地へ丘陵地帯もあり、豊かな自然に恵まれた地域です。

システム関連フロー図

消防本部単体または広域消防本部向けフロー図

実線=手動配信 点線=自動配信

